



▲東御廟所



▲西御廟所

**深溝松平家墓所が幸田町指定文化財に指定されました！**

名称 史跡 深溝松平家墓所

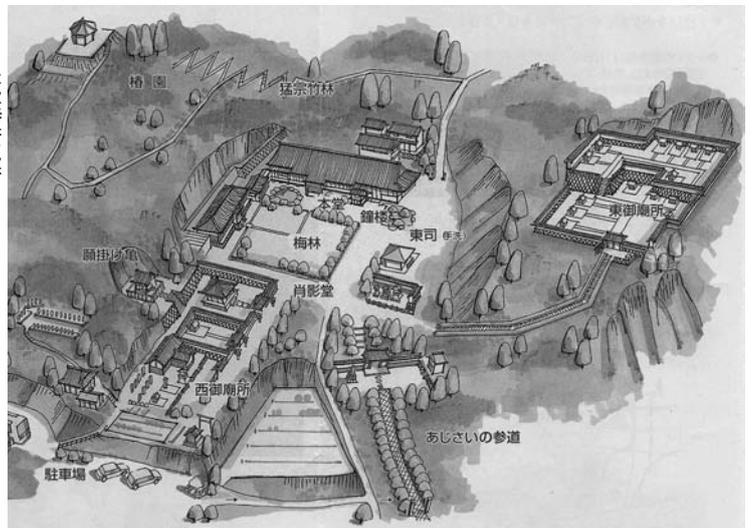
所在地 幸田町大字深溝字内山3、27

指定日 平成22年1月6日

**指定理由**

- ・ 深溝松平家発祥の地である深溝に、歴代当主の墓所が途切れることなく築かれている。
- ・ 菩提寺本光寺と深溝村の人々が現在まで墓所を守ってきたという歴史は深溝の歴史そのものである。
- ・ 徳川將軍家と近い関係にある深溝松平家の墓制は、江戸時代の大名の墓制を研究する上で重要である。

深溝松平家墓所は、深溝学区にある瑞雲山本光寺の境内に築かれた肥前島原（今の長崎県島原市）藩主松平家のお墓のことです。墓域は境内の東側と西側に分かれており、それぞれ東御廟所、西御廟所として知られています。昨年の春に発掘調査が行われた7代忠雄墓所は、東御廟所に築かれた歴代当主の墓所のうちのひとつになります。



▲本光寺境内図（パンフレットから）

① 西御廟所

- ① 初代忠定、2代好景、3代伊忠、4代家忠までの墓石（写真1）

4代家忠の時代まで本光寺は深溝字向野周辺に築かれていましたので、4代までのお墓もそちらに建てられていたと考えられます。本光寺が現在の場所に移ったときに墓石を移動させたのでしょう。深溝字向野には初代忠定と2代好景のお墓が残っています。

②5代忠利をまつった肖影堂（写真2・3）  
 このお堂は忠利を埋葬した墓所になります。お堂の中央には木造の松平忠利坐像が納められています。現在の屋根は瓦ぶきですが、これは明治時代の修理に合わせてふかれたもので、江戸時代までは檜皮ぶきの屋根であったことが文献資料から明らかとなっています。



▲写真1（左から忠定、好景、伊忠、家忠）

③11代忠恕の墓所（写真4）

忠恕が島原藩主の時代、雲仙普賢岳の噴火による大災害が起り、藩政が非常に混乱しました。そのことを恥じた忠恕は歴



▲写真3（木造の5代忠利坐像）



▲写真2（5代忠利をまつった肖影堂）

④一族・家臣の墓石と供養塔（写真5）  
 代藩主と同じ場所に葬るのではなく、西御廟所に墓所を築くように遺言を残したと伝えられています。



▲写真4（11代忠恕の墓所）

⑤6代忠房による祖宗紀功碑（写真6）



▲写真6（祖宗紀功碑）

⑥6代忠房による祖宗紀功碑（写真6）  
 亀のえりにおさい銭が入ると願いが叶う「願掛け亀」として親しまれています。6代忠房によって建立されたもので、亀の甲羅の上に築かれた方形の石塔には清和天皇より始まる松平家の系譜に続き、深溝松平家の初代から5代までの武勲が刻まれています。



▲写真5（一族・家臣の墓石と供養塔）

(2) 東御廟所

格子戸をくへり階段を上ると土塀・石垣に囲まれた東御廟所が姿を現します。廟所には6代忠房夫妻、7代、10代、12代、19代までの計14基の墓所が築かれています(写真7)。



▲写真7 (東御廟所)

墓所は神社の神殿を模倣して造られており、内部に木製の位牌が納められています。細部で異なる個所はみられるものの、基本的にすべて同じ大きさ・同じ形状で統一されています。神殿形状となった理由について

ては、6代忠房が神道への信仰が非常に厚かったためともいわれています。(写真8・9・10)。



▲写真8 (6代忠房の墓所)

この廟所は6代、12代の墓所を築いたのち、墓域を山側に広げて、1段高い位置に13代以降の墓所を築いています。

墓石には三河で産出する花こう岩などを用いており、地面に敷き詰められた小判石は旧領地である岡崎の小美から運ばれたものと伝えられています。

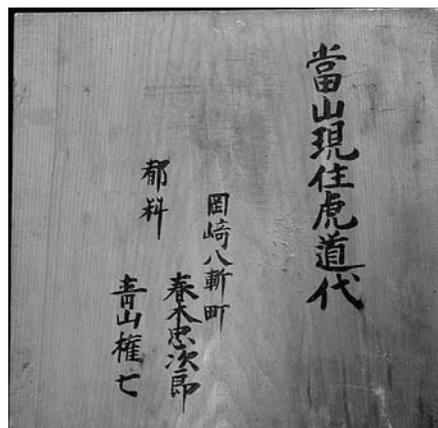


▲写真10 (19代忠諒<sup>ただあき</sup>の墓所)



▲写真9 (12代忠馮<sup>ただより</sup>の墓所)

墓所の造営には岡崎の石屋が関わっていたことがお寺に残る記録や忠雄墓所に納めてあった棟札(写真11、※1)から明らかとなっています。石都岡崎の優れた技術によって300年以上の間、廟所が守られてきたのです。



▲写真11 (7代忠雄の墓所の棟札)

※1  
棟札は棟上げのとき、工事の由緒・年月日・建築者・工匠などを記して、棟木に打ちつける札。

(3) 本光寺文化財調査指導委員会

本光寺文化財調査指導委員会の第1回目の会議が平成21年12月17日(木)に開催されました。この委員会は深溝松平家墓所の国指定史跡を目指すにあたって、その歴史的価値を調査するために設立されたものになります。国指定史跡をいただくためには墓所と墓所を守ってきた本光寺の歴史的な位置付けを明らかにする必要があります。文化財各分野の専門家の皆さんや所有者、地元関係者に委員として参画をいただき、調査指導をいただいでいきます。指導委員会ならびに専門委員会は調査の進行に応じて年に数回開催いたします。

第1回目の会議において今後の事業計画が審議されました。松平忠雄墓所発掘調査報告書は平成23年度に概要報告書を刊行し、平成26年度に正式な報告書の刊行を予定しています。本光寺所蔵資料の調査については平成22年度から24年度にかけて行い、平成24年度に資料調査報告書を刊行する計画となっています。

本光寺文化財調査指導委員名簿 (敬称略)

区分	氏名	職名等	専門
顧問	松平忠貞	深溝松平家 20代当主	
〃	鶴田悦章	瑞雲山本光寺住職	
委員長	坂詰秀一	立正大学名誉教授	考古学
副委員長	新行紀一	愛知教育大学名誉教授	文献史学
専門委員	山崎隆之	愛知県立芸術大学名誉教授	彫刻史
〃	小池富雄	徳川美術館企画情報部長	工芸史
〃	神谷浩	名古屋市美術館副館長	近世絵画史
〃	高妻洋成	奈良文化財研究所 保存修復科学室長	保存科学
〃	赤羽一郎	愛知学院大学非常勤講師	考古学、工芸
〃	愛甲昇寛	愛知県史編纂特別調査員	石造物
〃	藤井恵介	東京大学大学院准教授	建築史
委員	志賀忍	幸田町文化財保護委員会委員長	
〃	齋藤國一	里区長	
〃	鶴田悟裕	瑞雲山本光寺副住職	
〃	山崎昭男	本光寺護持会会長	
助言者	文化庁記念物課文化財調査官		
〃	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室		
事務局	幸田町教育委員会生涯学習課		



第1回会議の様子

問合せ 幸田町教育委員会 生涯学習課生涯学習G (内線433)